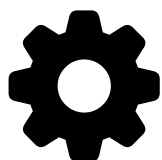




iPadの管理と運用



OSアップデート

セキュリティと機能を
常に最新の状態にする

目次

はじめに	3
OSアップデートを行う目的	4
アップデート方法	5
アップデートを延期する	7
コンテンツキャッシュを活用する	7
OSアップデート前の確認事項	8
AppleSeed for IT	9
スムーズなアップデートを行うためのヒント	10
関連資料	11

はじめに



アップデートを計画的に行うことで、学びを止めることなくセキュリティを強化しましょう

Appleでは継続的にソフトウェアの最新アップデートを無償で配布しています。通常、アップデートはユーザー側の任意のタイミングで、いつでも自由を実施することが可能ですが、教育現場にてそのような運用を選択すると、アップデートが授業進行の妨げになる可能性もあります。それを回避するために、生徒や教師のみなさんに自宅のWi-Fiを使ってアップデートしてもらうことを検討したり、MDM(デバイス管理サービス)を介してアップデートを延期し、日常的に使うアプリの互換性を事前に検証しておきましょう。

OSアップデートを行う目的

最新のソフトウェアが動作するようハードウェアを最適化することで、iPadはより便利なツールに進化します。最新の機能を使えば学習効率をさらに高め、生徒や教師のみなさんの体験をより豊かなものにすることができます。

また、様々な世代のiPadを安全に保ち、セキュリティの脆弱性からプラットフォームを保護する意味でも、OSのアップデートにはメリットがあり、Appleでは常にiPadOSを最新版にアップデートすることを推奨しています。

アプリによっては、OSが特定のバージョン以降でないと最新版が使えない場合もあります。

(例：GarageBand 2.3.18はiPadOS 26以降が必要)



アップデートの頻度と対応するiPad

iPadOSは、例年秋のメジャーアップグレードを含め、継続的に新しいバージョンがリリースされています。アップデートは必要に応じてリリースされますが、概ね月1、2回の頻度となっており、必要な容量もそれぞれ異なります。

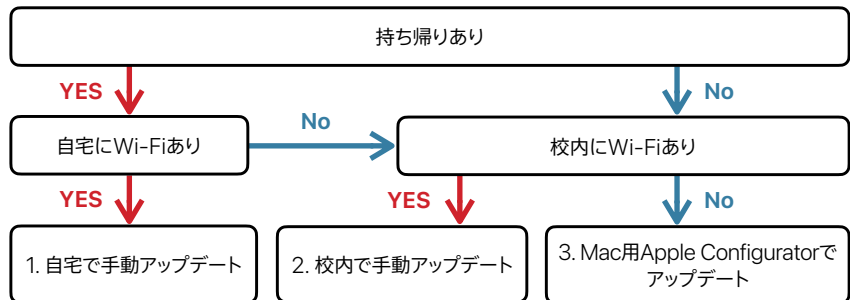
iPadOS 26へのアップグレードが可能なデバイスは以下の通りです。

- ・ iPad Pro (M4、M5)
- ・ iPad Pro 12.9 インチ (第3世代以降)
- ・ iPad Pro 11 インチ (第1世代以降)
- ・ iPad Air (M2、M3)
- ・ iPad Air (第3世代以降)
- ・ iPad (A16)
- ・ iPad (第8世代以降)
- ・ iPad mini (A17Pro)
- ・ iPad mini (第5世代以降)

リリース	iPadOS	
2024/09	18	
2024/10	18.0.1	18.1
2024/11	18.1.1	
2024/12	18.2	
2025/1	18.2.1	18.3
2025/2	18.3.1	
2025/3	18.3.2	18.4
2025/4	18.4.1	
2025/5	18.5	
2025/7	18.6	
2025/8	18.6.2	
2025/9	18.7	18.7.1
2025/11	18.7.2	
2025/12	18.7.3	

アップデート方法

iPadのOSアップデートを行うには、いくつか方法がありますが、持ち帰りを実施している場合、可能な限り各家庭のWi-Fiでアップデートを実施してもらえようご案内ください。校内でアップデートを行う場合は、Wi-Fi環境の有無により、ステップが異なります。いずれの場合も、アプリの互換性などの検証が必要であれば、MDMでアップデートの延期を設定することが可能です。



最適なアップデート方法

1.各家庭にWi-Fiがある場合：ユーザーが手動でアップデート

ソフトウェアアップデートはいつでも確認およびインストールできます。「設定」>「一般」>「ソフトウェアアップデート」と選択すると、現在インストールされているiPadOSのバージョンと、アップデートが提供されているかどうかが表示されます。アップデートする場合は「今すぐアップデート」を選択してください。



手動でソフトウェアアップデートを行う画面

注記：次の最新メジャーバージョンへのアップグレードが利用可能になった後でも、限られた期間であればアップグレードするか、現在のバージョンを使い続けてそのままマイナーアップデートするかを選択できます。これにより、すぐにアップグレードできない場合でも、マイナーバージョンアップすることで重要なセキュリティアップデートの恩恵を受けることができます。

2.校内にWi-Fiがある場合：ユーザーが手動で、または管理者がMDM経由でアップデート

MDMからアップデートする場合は、iPadにパスコードが設定されているとユーザーがパスコードを入力する必要があります。そのため、校内でアップデートする場合も、家庭での場合と同様にユーザー側での手動操作を推奨しています。

iPadを共有していたり、カートで管理している場合など、複数のiPadを一斉にアップデートする必要がある場合は、MDMコマンドを使ってインストールを開始することも可能です。

iPadを監視モードにしておけば、MDMコマンドを送信することで、最新バージョンのOSがダウンロードされます。MDMからiPadに対して「ダウンロードのみ」や「ダウンロードしてアップデート」などのオプションを選択できます。iPadOS 17以降では、宣言型デバイス管理に対応したMDMであれば特定の日時までに指定したバージョンへのアップデートを強制することができます。

注記：特定の日時を指定しないでソフトウェアアップデートを強制する従来のMDMコマンドは非推奨で、2026年内に廃止予定です。



パスコードの入力画面

3.校内にWi-Fiがない場合：管理者が有線でアップデート

校内にWi-Fi環境がない場合、Mac App Storeから無償でダウンロードできる「[Mac用Apple Configurator](#)」アプリを使い、iPadとMacを有線接続してアップデートを行うことも可能です。複数台のiPadを同時に処理するためには、高性能なUSB HUBを使用してください。ただし、この方法では、Macがインターネット接続されている必要があります。

アップデートを延期する

アプリの互換性などの観点から、テストと検証が必要な場合は、MDMでアップデートの開始を遅らせることも可能です。

アップデートは、最長90日延期するように制限を設定することができます(デフォルトは30日)。この設定を行うと、延期中のアップデートはユーザーに表示されなくなります。

ただし、アップデートを延期するには、デバイスを「監視モード」に設定する必要があります。

例えば、4月26日に最新バージョンがリリースされ、90日の延期をかけていた場合、ユーザーのiPadにアップデートの通知が行われるのは、7月25日になります。これは、あくまでもタイミングを遅らせる機能で、アップデートを停止するわけではありませんので、90日を過ぎると、ユーザー側に通知が表示され、手動でのアップデートが可能になります。アップデートには個別に有効期限が設定され、延期期間が過ぎていても実際には利用できない場合があります。

コンテンツキャッシュを活用する

ユーザーが一斉にアップデートを行うと、インターネットの帯域幅の課題が出てきます。校内でアップデートを行う場合は、Appleが無償で提供している「[コンテンツキャッシュ](#)」サービスを活用してください。

OSアップデート前の確認事項

□ IT担当者が事前にアップデートを行う

iPadOSは、一度アップデートするとダウングレードすることはできません。まずは各学校や教育委員会のIT担当者が検証用のデバイスでアップデートを行い、利用環境に問題がないかを確認してください。この時、アップデートの遅延を設定して保留中の場合は、手動操作で最新版にアップデートできませんので、遅延の解除が必要になります。あるいは遅延を設定している場合でも、MDMからはいつでも最新版にアップデートすることができます。

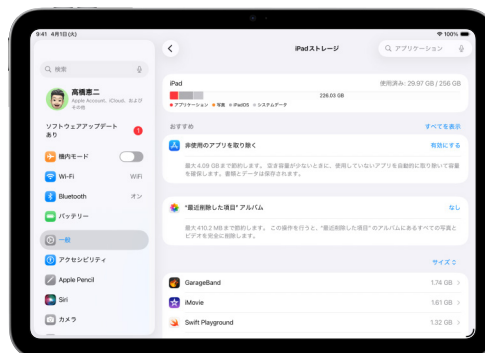
□ iPadが充電されているか

iPadのバッテリー容量が少ないとアラートが出て、アップデートを行うことができません。アップデートは電源アダプタに接続し、iPadが十分に充電されている状態で行ってください。

□ ストレージの空きは確保できているか

アップデートごとにサイズは異なりますが、事前にiPadに十分な空き容量を確保しておくことが必要です。「設定」>「一般」>「iPadのストレージ」からストレージの空き状況を確認し、必要のないデータやアプリを削除しておきましょう。ただし、アプリの削除はMDMから禁止している場合があり、必要になった時点で再びインストールできるかの確認も必要になります。

管理対象Apple Accountを使用している場合は、iCloudでiPadの[ストレージを最適化](#)することを推奨します。



ストレージの空き状況の確認画面

AppleSeed for IT

Appleは教育機関向けに、AppleSeed for ITプログラムを提供しています。これにより、モバイルデバイス管理(MDM)設定の変更点をリリース前にテストできます。対象デバイスにはiPhone、iPad、Mac、Apple TV、Apple Watch、Apple Vision Proが含まれ、「メール」や「カレンダー」などの標準アプリも含まれます。教育機関のIT担当者は、独自の作業環境で最新のプレリリース版ソフトウェアを評価し、Appleのエンジニアリングチームに直接フィードバックを提供できます。

機能

教育機関のIT部門は、AppleSeed for ITを利用して、ソフトウェアのリリース前にベータ版をテストすることが可能です。フィードバックは、ソフトウェアの品質、使いやすさ、統合性を向上させます。これにより、新しい技術を迅速に活用し、教育現場での信頼性を確保できます。

アクセス

Apple School Managerを使用しているお客様は、AppleSeed for ITに参加できます。プログラムに参加するには、組織から付与された管理対象Apple Accountと、管理対象Apple Accountに関連付けられているメールアドレスが必要です。[こちら](#)からアクセスすれば無料でご利用いただけます。ただし、生徒用の管理対象Apple Accountでは参加できません。

ほかのベータプログラムと組み合わせる

AppleSeed for ITでは、プレリリース版のiOS、iPadOS、macOS、tvOS、watchOS、visionOSおよびその他の特定のAppleアプリにアクセスできます。教育機関は、MDMベンダーや他のITパートナーと協力し、それぞれのベータプログラムに参加することで、最新機能に対応できます。運用上重要なアプリ、ネットワーク接続、セキュリティ設定、導入ワークフローなどの必須サービスをテストしてください。

スムーズなアップデートを行うためのヒント

💡 アップデートのタイミングを決める

校内でアップデートを実施する場合は、授業に影響が出ないタイミングを選んで、OSアップデートを実行してください。一斉にアップデートを行うと、インターネット回線の帯域幅に負担がかかりますので、コンテンツキャッシュの配備を検討してください。

💡 アップデートを行う場所を検討する

どこでアップデートを行うかも検討してください。iPadの持ち帰りを実施している場合には、可能な限り各家庭のWi-Fiでアップデートを実施してもらえよう、ご案内されることを推奨します。

💡 コンテンツキャッシュを配備する

インターネット回線の帯域幅を把握した上で、コンテンツキャッシュの配備が必要かどうかを検討してください。特に、校内で一斉にアップデートを行うケースでは、コンテンツキャッシュの配備が推奨されます。トラフィック対策を行えない場合は、多数のiPadに対して同じタイミングでダウンロードを実施することは避け、時間を空けて少数のiPadごとにダウンロードするようにしてください。

アップデートのためのチェックリスト

- ☐ アップデートがリリースされる日までに、MDMでアップデートの延期を設定
- ☐ IT担当者やICT支援員などを含む検証チームを編成
- ☐ 新しいiPadOSの機能を確認
- ☐ 検証機で最新バージョンのOSをダウンロード
- ☐ インフラや周辺機器との互換性の確認、アプリの動作確認
- ☐ アプリの使用に支障が出る場合、開発元に対応スケジュールを確認
- ☐ アップデート実施日と場所を決定し、関係者に告知
- ☐ 新機能について案内
- ☐ アップデートの実施

関連資料

「Appleプラットフォーム導入 - Appleデバイスのソフトウェア・アップデートについて」

support.apple.com/ja-jp/guide/deployment/depc4c80847a/web

「Mac用Apple Configuratorを使用してデバイスをアップデートする」

support.apple.com/ja-jp/guide/apple-configurator-mac/cad789a3f0bd/mac

「写真とビデオが占有するストレージを管理する」

support.apple.com/ja-jp/HT205703

「AppleSeed for ITに参加して必須サービスをテストする」

support.apple.com/ja-jp/guide/deployment/depe9ec59a81/web

「iPadの管理と運用 コンテンツキャッシング」

apple.co/contentcaching_JA

© 2026 Apple Inc. All rights reserved. Apple, Apple TV, tvOS, Apple Watch, Apple Vision Pro, Appleのロゴ, GrageBand, iPad Pro, iPad Air, iPad, iPad mini, iPadOS, iPhone, Mac, macOS, visionOS, watchOSは米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。iCloudは米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.のサービスマークです。IOSは米国および他の国におけるCiscoの商標または登録商標であり、ライセンスにもとづき使用されています。iPhoneの商標は、アイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。この資料に記載されているその他の製品名および社名は、各社の商標である場合があります。製品仕様は予告なく変更される場合があります。この資料は情報提供のみを目的として提供されます。Appleはこの資料の使用に関する一切の責任を負いません。2026年1月